

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400064		
法人名	カネカツ株式会社		
事業所名	グループホーム暖家		
所在地	兵庫県豊岡市城崎町今津787-1		
自己評価作成日	令和6年2月6日	評価結果市町村受理日	令和6年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosyo_index">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosyo_index</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和6年2月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用されている高齢者の方々は、特に食事を楽しみにされていることが多いと思います。グループホーム暖家では週二回、豊岡市内に新鮮な食材を買い物に行き、一人ひとりの状況に配慮しながら1日3食調理をして、温かい食事を摂っていただいています。また地域の協力医院の先生、スタッフ、また薬局(居宅療養管理指導)、訪問看護ステーションとも連携を取りながら、看護師は在籍しませんが、ご利用者の健康の維持には万全を期しています。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

城崎温泉近くの自然豊かな地域の中にあり環境に恵まれている。居室やリビングからは手に届くように雄大な自然風景が望める。開設当初からの方針を継承し、食事はすべて手作りを実践している。献立も各階で異なるものを提供している。ベテラン職員も多く、和気あいの雰囲気の中で食事時間を過ごしている。7月には外国人職員の受け入れが決まっており人員補充も順調である。4月にはオーナー管理者の就任が予定されている。地域性もあるが、現管理者の尽力もありゆったりとした日常になかで、穏やかに過ごしている利用者状況は安定している。外国人職員の受け入れ準備と共に、ベテラン職員と一丸となった日常支援が行われている。開設以来、利用者の日常生活は自然な雰囲気のままで継続されている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・屋内の各所に理念を掲示し、理念に基づいた言動が出来るように配慮している。 ・カンファレンス等の会議で理念を確認している。	理念を事務所・フロアの目立つところに掲示している。ベテラン職員も多く、敢えて理念を前面に出さずとも日常生活の支援の中で自然に実践できている。フロア会議などの際には再確認をするように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・挨拶をしたり、地域の草刈りに参加し交流を図るように努力している。	近隣は介護施設の受け入れが困難な地域であった。開設から年月を経て行く中で、住民からの差し入れがあったり、ごく自然な流れで挨拶ができる関係性ができている。地域独自の行事ではなく「城崎祭り」への参加も現在はできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議また入居相談等の中で認知症の方の理解、支援方法などをお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・グループホームご利用者の近況、運営の状況またコロナウィルス対策などについて、状況を報告し、意見をいただいている。意見は運営に反映させている。	地域包括・民生委員・知見者に加えて本人・家族の参加で開催している。様々な意見交換ができている。主治医Dr.からは看取りについての詳しい説明を受けることもある。	今後の議事録には参加者氏名を明記すると共にヒヤリ・ハット、事故報告及び家族からの要望や意見についてもリアルタイムで記載して利用者家族への送付が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・連絡・相談など必要に応じて行っている。	市による受け入れ推進が進んでいる。種々の疑問や相談事案については都度、質問をして回答を得ており、こまめに連絡をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の有無の確認や学習会などを実施し、身体拘束のないケアに努めている。	施設入口や居室内で赤外線センサーを利用している。限定的に就寝時のみの利用など、用途に応じて家族への説明と理解を得ている。書面にて確認できている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止研修を行い虐待について学ぶとともにカンファレンスのなかで虐待が起きないように検討している。	フロアカンファレンス後に研修を実施しているが職員個々の報告書は作成されていない。各階に2名配置されている相談員が主となり、日常的な言葉かけなどに注意できる関係性である。	定期的に研修開催をした後の「研修報告書」は作成をしていただきたい。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員は会議において、日常生活支援事業や成年後見制度について学習するとともに、入居時においてご利用者や家族に各制度について説明している。	成年後見制度の利用者はいる。また生活保護の利用者も受け入れている。入居時に家族への説明は行っているが、職員はかかわりの中で制度を知る機会はあるが特に研修としては実施していない。	成年後見制度・日常生活支援事業についての研修を開催し、職員の知識として身近なものとして位置づけていただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時にはご家族に不安の無いように十分に説明している。また、改定時にも説明を行っている。	契約時には聞き取りに時間をかけている。重度化・看取りについては丁寧に説明し質問を受け納得を得ている。入院時の説明や通院について、家族の協力が必要であることも細かなところまで説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご利用者の話をよく聞くこと、また面会時や運営推進会議などでご家族の話を聴き運営に反映させている。	家族アンケートや運営推進会議で出た意見は、全ての利用者家族が共有できるようになっていない。内容共有が出来る仕組みがないが、個々にお話しできる機会を捉えて話すようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・各階カンファレンスや朝のミーティング等を出てきた職員の意見はすぐに検討し運営に反映させている。	各階のカンファレンスは毎月1回、定例開催している。毎朝、事務所でミーティング(申し送り)を行い日常的な利用者情報共有をしている。管理者と職員は日頃からコミュニケーションがスムーズにとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は職員個々の状況、努力、実績を把握し、個々の職員が意欲を持って介護業務にあたるように条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は職員個々の力量を把握しながら、研修等を実施している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会に参加している。コロナ禍で出席することは少ないが、必要な研修には参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・困られていること等について、いつでも話していただくように接している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居される時点で、困られていること、要望等を聴くようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居される段階で、ご家族、本人また事前紹介資料からご本人にどのような支援が必要かをよく話し合い支援している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・理念にも照らし合わせながら、良い関係が作れるように努力している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会また通院などを通じてご利用者と家族の関係が保てるように援助している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の関係から充分に出来ているとはいえないが、手紙を書いていたなど、方法で関係が途切れないように配慮している。	コロナ禍の中で途切れた関係性もあるが徐々に再開を考えている。近隣住民からはコロナ禍の中でも差し入れがある。買い物は再開できていないが施設周りの散歩の際には挨拶をかわすなどのかかわりがある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・食事の席など、話のしやすいグループで食事を摂っていただくなど配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去されて後もどのようなことでも相談していただくように話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の気持ちに添って介護計画を作成している。	入居前の生活の状況や家族からの情報を参考にしているが、日々の職員との会話や関わり、利用者間の様子から思いを把握している。利用者と向き合い、ゆっくり時間を設けることで徐々に利用者自身が思いを表すことは多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・事前資料、ご家族や、ご利用者本人と話をする中で生活歴等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・心身の状況の把握、毎日の生活状況の記録などをとおして、一人ひとりの状況の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、家族、担当のDr.の意見を聞きながら、ご本人の意向に添った介護計画を作成するようにしている。	利用者の日々の心身状況を踏まえ、利用者の思いや意向、それに対しての家族の意向を聴き取り、2ヶ月毎にモニタリングを行い、毎月のカンファレンスで検討している。基本、半年毎に計画を見直している。入退院及び体調変化など医療面での変化があれば、その都度アセスメントと併せ見直している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケアカンファレンスでスタッフの意見を調整しながら実践や介護計画を見直している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご本人や家族の状況に応じて、ニーズを検討し、対応できるように努めている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・成年後見また日常生活支援事業の活用、コロナ禍ではあるが図書館の利用などご本人が楽しい生活が出来るように支援している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人の病状によって必要な医療機関に受診できるように支援している。	利用者及び家族の意向を優先しているが、ほぼ協力医療機関である近隣の訪問診療を主治医としている。内科、精神科を中心に、些細な状態変化と併せ、日常の健康管理を担っている。専門医の受診等が必要な場合は、適切な医療機関につなぐ体制ができています。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・協力医院の看護師と連絡をとる、また医師をつうじて訪問看護ステーションに相談するなど受診・看護の相談をしている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時の情報提供、退院時のDr.やスタッフからの情報提供、入院病院担当医から当施設協力医院への情報提供などを依頼し情報の交換に務めている。	日々の健康管理には注意しているが、やむをえない入院があった場合は、主治医と協力医療機関で共有を図り、適切な治療につないでいる。協力医療機関の医療連携室と主治医及び訪問看護との密な連携体制により、早期退院を可能としている、	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・協力医院のDr.と相談しながら、ご家族、Dr.、施設スタッフと今後の介護について相談し、支援させていただいている。	今年度、看取りの事例はあった。利用者の思いや人となりを尊重し家族の不安軽減に努め、共に過ごせる時間を確保するよう心がけている。主治医と訪問看護、職員がチームとなって方針を共有し、その人らしい看取りを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で外部の訓練は実施できていないが、必要に応じて実践をすることが出来る。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災、防火訓練は実施し、施設に応じた対応は出来る。	12月に消防署立ち合いの夜間想定での訓練を、今月は昼間想定での訓練を予定している。その際は、周辺にチラシを配布し周知を図っている。ハザードマップでは自然災害が想定され、運営推進会議でも取り上げ共有している。消防署がすぐ近くで連携体制は確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格を尊重するような言葉かけをするように心がけている。	テーマをあげての研修は行っていないが、虐待研修の中でとりあげている。利用者の特性に左右されない高齢者を敬う姿勢で向き合うことを職員に伝えている。業務の中で利用者との関わりを通じて、指導、注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に話を聴くなかで、思いや希望を聴き自分で物事を決められるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その人らしさを大切にできるようにように配慮している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・清潔に留意し、身だしなみに配慮するように配慮している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みに配慮し、美味しく食べていただけるように配慮している。食器拭き等の片付けもされている。	食事を主として担当する職員が、季節感と利用者の好みを参考にメニューを考え調理している。利用者が食べ慣れた地産地消の旬の食材をメインにした家庭料理を職員も共に食している。調理法や味付け、盛り付け、自助具の活用など、個々のペースで食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々のご利用者の嗜好、水分量等に応じて栄養バランスが摂れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・3食後、歯磨きを呼びかけ、肺炎等の防止の支援をしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの排泄状況をしり、自立に向けた支援をしている。	個々の習慣や癖を踏まえ、その人にあった排泄用品を選択している。トイレでの排泄を基本としているが、職員は排泄パターンを把握し、早めにその人に併せ声をかけ誘導する。夜間はベッド横のポータブルトイレを利用している人も多く、職員がサポートしたり、見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない、また便秘が改善されるように水分の工夫やDr.との相談等を行い取り組んでいる。		



自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・目途として週に2回の入浴としているが、ご利用者の状況に応じて入浴をしていただいている。	概ね、午前中の入浴となっているが、無理強いせず、気持ち良く入ってもらおう声かけしている。中には長風呂の人もあり、体調をくずさないよう声かけするなど、利用者の習慣やペースを大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの状況に応じて、安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局に居宅療養管理指導で連携し、薬を適正に服用していただけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯や食事などの役割を分担しながら、充実した日々が過ごせるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ感染予防もあり、外出には制限があるが、病院への通院、近所の散歩など必要に応じて外出支援をしている。	地域の情勢をみながら、少しずつ再開していきたいと考えている。気候に応じて周辺を散歩したり、通院に限られていたが、4月の花見は今から楽しみにしている。気分転換を兼ねドライブすることもあり、季節の花を観に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金に関する他のご利用者とのトラブルや思い違いがあることが多く、ホーム内では原則として、現金は持たれていない。外出される場合は、お金を使えるように配慮している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話や手紙のやりとりができるように配慮している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度や湿度の調整、過度な音を控える、また季節感のある装飾をするなど居心地良く過ごしていただけるように配慮している。	カウンターキッチンが併設された広いリビングには、大小の食卓テーブルが複数置かれ、利用者の状況に応じて柔軟に配置できる。室内でも季節が感じられる飾りや手作り作品、利用者のレクリエーションの様子がわかる写真などが、掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルの席など、話のはずむようなメンバーとなるように配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にはテレビなど各自の必要なものを置かれている。	洗面台が備わっており、周りには、日常の整容用品が置かれている。自宅で使っていた整理ダンスや物入、椅子や机、テレビなどが置かれている。小型のハンガーラックには、普段着が掛けられ、自分で選べる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の場所がわかりやすいように、また安全に移動しやすいように配慮している。		

(様式2)

事業所名:グループホーム暖家

## 目標達成計画

作成日: 令和6年4月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の方との交流をより進めていく	地域の行事に参加する。	夏(8月上旬)の地域の草刈りに参加する。	10月
2	13	研修報告書(特に内部研修)に於いて報告もれがある。	会議・研修の報告をもれなく提出する。	内部研修の報告書の提出を徹底する。	12月
3					月
4					月
5					月

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
			④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他(グループホームの動向、他グループホームの状況を知ることができた)
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
			②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
			③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
			⑤その他( )